

| | | | | | | | | | | | |
|---|-------|--|---|--------------|-------------|-----------------|----|-----------------|------|----------|-----|
| 科目ナンバリング | | G-LET14 61831 LJ36 | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | | 仏教学(特殊講義) Buddhist Studies (Special Lectures) | | | | 担当者所属・ 職名・氏名 | | 人文科学研究所 教授 船山 徹 | | | |
| 配当 学年 | 1回生以上 | 単位数 | 2 | 開講年度・ 開講期 | 2019・ 後期 | 曜時限 | 火4 | 授業 形態 | 特殊講義 | 使用 言語 | 日本語 |
| 題目 | | 仏教漢語の語義解釈：梵語的側面と漢語的側面(2) | | | | | | | | | |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| <p>5－11世紀頃の中国仏教思想史の根幹的な発展に関わる漢字仏教語（仏教漢語）に着目し，漢語に特有の仏教語の語義解釈に迫る。</p> <p>中国の仏教徒は，サンスクリット語原典を逐一比較することなく，専ら漢語で仏教を理解した。その結果，仏教漢語を理解する際に，インド本来の語義に加え，漢語特有の中国的解釈法を重ね合わせ，一語を二重三重に解釈して，意味や思想に幅を持たせる重層的効果を実現した。</p> <p>この授業では，漢語に基づく仏教理解が，インド文化から何を継承し，中国でいかなる独自の展開を遂げたかを，基本的仏教語の語義を原文をもとに解明する。このことは仏教という外来文化を理解するための文化的・言語的・学術的背景を知るのに有益である。</p> | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| <p>一，仏典漢訳史（仏典漢訳の歴史的変異）の概略を理解する。</p> <p>二，仏教漢語を伝統漢語と訳語の二面から扱うための方法論を身に付ける。</p> <p>三，仏教漢語を上記二面から扱い，適切な現代語訳を作り，漢語仏典の読解力を向上させる。</p> <p>あわせて以下3点を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．大蔵経に関する知識と使用上の留意点 2．仏教漢文の訓読法 3．電子化された一次資料の使い方 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| <p>第1回：前期に学んだことを整理し，後期の内容と目標を説明する</p> <p>第2回：仏教漢語「世俗諦」の原典講読と現代語訳</p> <p>第3回：仏教漢語「言語道断，心行処滅」の原典講読と現代語訳その1</p> <p>第4回：仏教漢語「言語道断，心行処滅」の原典講読と現代語訳その2</p> <p>第5回：仏教漢語「如来蔵」と「仏性」の原典講読と現代語訳その1</p> <p>第6回：仏教漢語「如来蔵」と「仏性」の原典講読と現代語訳その2</p> <p>第7回：仏教漢語「五陰」と「五蘊」の原典講読と現代語訳</p> <p>第8回：仏教漢語「天竺」と「天語」の原典講読と現代語訳</p> <p>第9回：仏教漢語「天竺」と「天語」の原典講読と現代語訳</p> <p>第10回：仏教漢語「正理」の原典講読と現代語訳</p> <p>第11回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その1</p> <p>第12回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その2</p> <p>第13回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その3</p> <p>第14回：仏教漢語「自性」と「自体」の原典講読と現代語訳その4</p> <p>第15回：総括：仏教漢語の語義解釈</p> | | | | | | | | | | | |
| ----- 仏教学(特殊講義)(2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

仏教学(特殊講義)(2)

【履修要件】

特になし

【成績評価の方法・観点及び達成度】

平常点（原文講読を担当する。積極的に意見と質問を出す）
自らの疑問や調べた内容を授業中に示し、出席者たち全員で意見交換してほしい。

【教科書】

使用しない

【参考書等】

（参考書）

船山徹 『仏典はどう漢訳されたのか：スートラが経典になるとき』（岩波書店，2013）ISBN:978-4-00-024691-0（仏典漢訳史を知るための概説書として参照してほしい）

授業は毎回、配布資料を作成し、それに基づいて原文を読み、現代語訳を作ります。

個別事項や内容に関して参照すべき図書や論文があれば、授業中にその都度知らせます。

【授業外学習（予習・復習）等】

予習：

配布資料を基にして、授業で精読する箇所を下読みし、自分自身の訳を準備する。

（その他（オフィスアワー等））

オフィスアワーは特に設定しません。

授業に関係する事柄であれば質問等はいつでも大歓迎します。

授業初回に問い合わせ先メールアドレスを知らせます。

オフィスアワーの詳細については、KULASISで確認してください。